



松江市版SDGs「MATSUE DREAMS 2030」

松江市政策部SDGs推進課 課長 岡田 等 (八束町入江在住)

突然ですが「皆さんは『SDGs』をご存じですか?」と聞かれたら、どう答えますか。今年の「市報松江1月号」で新春対談『松江市×SDGs 市民と世界と“つながる”』という特集記事を掲載しましたので、お読みいただいた方は「知ってるよ!」と言ってくださるかもしれませんね。

SDGsは、2015年の国連サミットにおいて全会一致で採択された、途上国も先進国も含めた世界中の一人ひとりに関わる17の取組目標です。そう聞くと、とても重要な内容であることは皆さん理解していただけたと思います。ところが、「国際目標」と言われても、話が大きすぎてピンとこない。」という声を多く聞きます。

かく言う私も、恥ずかしながらSDGsが世に出た当時はピンときておらず、「専門的で難しいから」と距離を置いていました。しかし、昨年4月に設立されたSDGs担当部署として携わるうちに、それまでの私の考えは正確には「知ろうとしていなかった」「最初から難しいと思い込んでいた」だけだった、ということに改めて気が付きました。今は反省の嵐です。

松江市では昨年3月、まちづくりの新しい指針「松江市総合計画 MATSUE DREAMS 2030」を策定し、SDGsと同じ2030年を目標年度に人口減少対策と地方創生に取り組むことにしました。『夢を実現できるまち 誇れるまち 松江』を将来像に据えた本計画は、いわば松江市版SDGsです。

地域課題は年々複雑化・深刻化し、解決するのも一筋縄ではいかなくなっていますが、私たちの「住み慣れた地域を良くしたい」という思いは皆同じです。一見、解決が難しそう課題でも、2030年に実現を目指すまちの

姿を皆で共有し、特に若い世代やUIターン人材などの新たな視点をもった人たちと共に考え、地元の良さを再発見することで、旧来の固定観念から抜け出し、解決の糸口が見つかるのではないのでしょうか。

八束町の先輩方が「どうしたら、もっときれいに咲くのだろうか。」と試行錯誤を重ねてこられた牡丹の花のように、私たち一人一人が「自分たちにも何かもってできることはないか」と知恵を出し合い、地道にまちづくりの取り組みを積み重ねることで、持続可能な八束町が実現できるものと思います。

ぜひ一緒にローカルSDGsから始めてみましょう。

(注)「SDGs(エスディー・ジーズ)」…持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)



松江市のSDGs



SDGsスペシャル
対談: You Tube



松江市:
市報ページ

特集
第16回
座談会

『地域をクリーンに！』

松江市の「生活環境の保全に関する条例」に基づき、本町からは3名の生活環境保全推進員が委嘱（2年間）されています。推進員の任務は、各地区のごみ排出状況の点検、リサイクルステーションの見回り点検、不法投棄防止のパトロール等です。本日は、昨年4月から活動されている推進員の皆様にお集まりいただき、一年間の活動状況について対談しました。（新型コロナウイルス感染症対策に配慮して実施。）



〈左から(敬称略)〉
玉木充男、足立裕治、安部 祐、藤原 稔

藤原…松江市から昨年4月、「八束地区生活環境保全推進員」に委嘱された皆様方にお集まりいただきました。この1年間大変ご苦労様でした。活動の様子は毎回報告いただき松江市に報告しています。本日は、地域における推進員の皆様の日頃の活動についての座談会を計画しました。まず、皆様方の役割について、お話を聞かせください。地区



玉木 充男さん
(波入)

生活環境保全推進員の活動

代表の玉木さんからお願いします。

玉木(代表)…生活環境保全推進員の具体的な活動内容は、主に次の3点です。①各地区のごみ排出(分別等)状況の点検。②各地区のリサイクルステーションの見回り点検。③不法投棄防止のパトロールです。推進員に委嘱された当初は、どのように対応しているかわからないため、各地区代表の自治連役員に相談し、各地区のごみ集積場、リサイクルステーションの状況把握から始めました。また、不法投棄の



足立 裕治さん
(二子)

巡回も推進員3名で行っています。私は、町外の出身で町内の事情はあまり詳しくありませんので、足立さん、安部さんと相談しながら活動しています。
足立…昨年4月から2年の任期で推進員を受けました。我々3名は、波入地区、二子地区、寺津・亀尻地区から出かけています。次の令和6年4月からの2年間は、入江地区、馬渡・遅江地区、江島地区から選出されるようです。推進員活動は、2か月に1回か、3か月に2回程度地区を指定し、ごみ集積場、リサイクルステーション、不法投棄の巡回を3名で行っています。



ごみ集積場の状況

安部…ごみ集積場の管理は、各地区とも当番制が確立されており、松江市との合併当初から考えると格段によく管理されていると思います。一部まだ旧ごみ

各地区のごみ排出状況

藤原…次に、各地区を巡回され、①ごみの排出(分別等)状況や、②リサイクルステーションの見回り点検時の状況等について、お聞かせください。

- 《座談会 メンバー》
- ①市生活環境保全推進員代表 玉木 充男(波入)
 - ②市生活環境保全推進員 足立 裕治(二子)
 - ③市生活環境保全推進員 安部 祐(寺津)
 - ④八束公民館主事 藤原 稔

袋で出されたり、規格外のモノが出されたりすることもあるようです。地区によって常識外のごみの出し方をされている場合は、写真を撮って回覧している地区もあり、かなりの抑制につながっていると思います。

足立…大根島、江島のごみ集積場を巡回しますが、広くて一回で巡回することはできませんが、不適切なモノがあっても当番の方が適切に処理されています。今後とも、現状を維持されればよいと思います。

玉木(代表)…私もこの一年間活動しましたが、巡回してみると各地区とも綺麗にされており感じました。各地区の区長さん方が掲示板を利用し、分別方法の紙を張るなどの工夫も見えました。こうした努力をされても、なかには燃えるごみ袋を縛らずに出したり、金属ごみの袋をあさった形跡や、金属ごみとしてテレビ(リサイクル品)が出してありました。その他、缶、瓶、ペットボトルの分別間違いや、瓶にタバコ等のごみが入れてあり処理しました。

藤原…次に、③不法投棄防止のパトロールについてお聞きします。本町には鳥取県境港市へ結ぶ長い北岸道路があります。その沿線では、車中から捨てられたと

思われる空き缶、ペットボトル、ビニール袋等のポイ捨てごみを多く見かけます。

不法投棄防止パトロール



安部 祐さん (寺津)

安部…現在、過去に何らかの不法投棄があつた場所に、不法投棄厳禁の看板が立っていますが、主要道路の巡回パトロールで感じるのは、空き缶、ペットボトルのポイ捨てが目立って多いことです。こうした環境問題は町内外問わず、今後ますますクローズアップされる社会全体の問題です。一人一人が環境に対する意識を変えていくことが大切と考えます。



不法投棄厳禁看板

足立…大根島と江島の県道や農道を巡回し、ポイ捨ての缶、ペットボトル、タバコ、ビニール袋等を回収しています。巡回場所が広いので全て回ることはできません。昨年からは活動を始めていますが、緑の帽子とベスト姿を見かけたら生活環境保全推進員だと思ってください。



緑の帽子、ベスト姿の
パトロール活動

玉木(代表)…パトロールは町内と、大海崎堤防道路の駐車場も巡回し清掃しています。駐車場はごみが多く袋が直ぐに一杯になります。町内では側溝の中にビールの空き缶が捨ててあり、掃除をして駐在所に報告し、巡回のお願いや、市八東支所に説明し、不法投棄禁止の看板を設置してもらいました。10月には自治連の理事会で活動報告し、各地区の区長さん方にも関心を持ってもらいました。このように、市

八東支所、公民館、駐在所の皆さん方に協力いただきながら活動ができています。この感謝を忘れずに、今後も活動していきたいと思えます。



藤原 稔主事

藤原…推進員の皆さんは、このほか市リサイクル都市推進課と連携し、地域の美化運動の推進・啓発活動も行っています。



八東学園 4 年生の環境学習

本日は、お忙しい中、ありがとうございます。4月以降も引き続きの活動をお願いします。

中村元博士が残した『慈しみあふれる言葉』を紹介します⑩

松江市出身でインド哲学・仏教学の世界的権威、中村元博士が残した慈しみあふれる言葉を、八束町中央の「八束複合施設」正面玄関東横にある掲示板で毎月紹介します。掲示内容は「中村博士自身が述べた言葉」の中から、中村元記念館の加藤千乃学芸員が選び、公民館で書道を学ぶ「中央書道サークル(橋淳子代表)」のメンバーが中心となって毛筆でしたためます。



〈左から〉安部敏樹公民館運営協議会会長、上定昭仁松江市長、安部吉輝自治会連合会会長、橋一秀地区社会福祉協議会会長

令和四年十二月揭示

現実を克服する

中村元のことば

令和五年一月揭示

心をととのえる

中村元のことば

令和五年二月揭示

欲望を制する

中村元のことば

令和五年三月揭示

晩年の自覚

中村元のことば

【出典・解説】

中学四年生(十七歳)の時の作文「この一年」の中で『受験地獄』という現実に対して述べた言葉

「...我等はこの現実に対して如何なる態度をとるべきであろうか。その道は他なし、現実にあつて現実を克服することである。即ち受験準備と研学(※学問を研究すること)とが一致して、矛盾することなく完全に融合せしめることである。もとより言うは易く行うは難い。しかし、常に受験準備のみにあくせくするのをやめて、学問を研究するという態度で対したならば、必ずや理想に近づくことが出来るであろう。...」
(注:旧字・仮名づかいは現代のものに直しています。)

(中村元記念館はじめのはじまり―中村元博士少年時代の作文集『より』)

【出典・解説】

「心は、われわれの理想どおりには動かない。われわれとは別の独立のものであるかのごとくに動きまわる。心の問題ではわれわれ自身がほとほと手を焼いている。心の問題われわれは自分の心をととのえるために、努力や工夫を必要とする。そうして、心がととのえられたところに楽しみがあると言えよう。心の迷いを解決したときに、われわれは『きれいにサッパリした』というではないか。...」

(中村元『構造倫理講座Ⅱ〈生きる道〉の倫理』より。)

【出典・解説】

中村元博士が財の獲得について述べた言葉。

「欲望を制するということは、必ずしも財を軽蔑することではありません。むしろ財の意義を重んずるがゆえに、自分の欲情にかられて不当に財を浪費することを戒めるのです。財は愛惜してこれを使用しなければなりません。...」

(中村元『仏典のことば―現代に呼びかける知慧』より。)

【出典・解説】

「高齢に達してもなお精神能力の衰えない人びとが実際に存在する。その境地は人為的努力によって到達しうるかどうかは問題ですが、人格を完成した人には可能なのであり、人格を完成した人の境地はなんびとも達しうる、と最初の仏教では考えていたのです。」

このように晩年の自覚をもつと、生きているというだけで楽しいことです。生きているということ自体に感謝すべきです。...」

(中村元『仏典のことば―現代に呼びかける知慧』より。)

あとがき

大根島シリーズ⑩ 「朝陽」

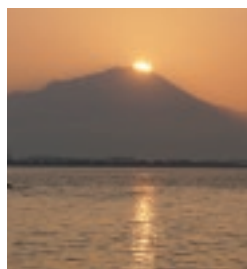
富士山の山頂部と太陽が重なって生じる光学現象を、「ダイヤモンド富士」と呼んでいます。

大根島東岸の遅江港から、毎年2月初め(冬)と、11月10日(前後秋)の2回、「ダイヤモンド」がまた北岸の二子港からは、5月中旬(春)と7月末(夏)、「ダイヤモンド江島大橋」を見ることが出来ます。

左の写真は、頂上部から太陽が昇る美しい朝の光景です。(池)



立夏・立秋の頃の江島大橋



立冬・立春の頃の大山